甘楽町広報

昭和37年4月15日　（毎月15日発行）　第32号　〔1頁〕

発行所　群馬県甘楽郡甘楽町大字小幡甲852
甘楽町役場
電話（小幡）4番・44番
編集　総務課広報係
印刷所　碓氷印刷株式会社

3月の人口動態

人口	14・722人
男	7・103
女	7・619
世帯数	2・694戸
転入	31
転出	146
生	15
死亡	16

四月の納税

一、軽自動車税年額
二、国保保険税第一期

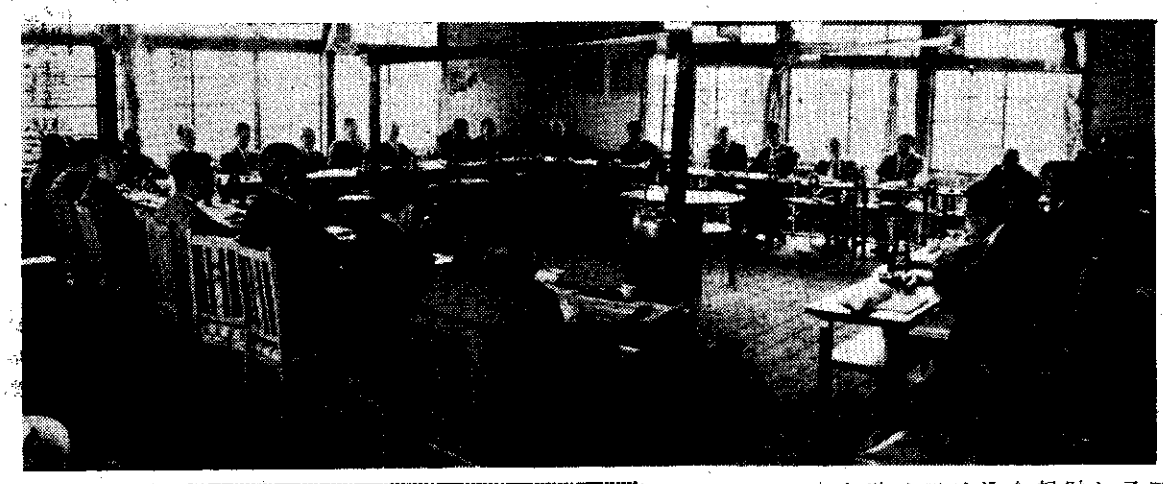
昭和37年度の予算成る

一億五百八十七万円の総額

庁舎建築資金には三百万円積立る

町の第二回定例議会は、三月十四日から三十一日までの十八日間の会期で開かれ、昭和三十七年度の歳入歳出一般会計予算案ほか十九議案を、原案どおり可決しました。

このうち、一般会計、特別会計予算ほか、身近かな問題をとり上げてお知らせすることにいたします。



写真は予算審議中の町議会

一般会計

総額は一億五百八十七万三千余円で、三十六年度当初予算総額より二百二十二万円少額です。

前年度の当初予算では、第一中学校舎の建築、小幡中学校家庭科室の新築、第三中学校の増築、福島小学校増移築などの大事業のため、一億八百万円をこえた予算を組んだわけで、この財源としては起債及び補助金を多額に見込んでいたわけです。

三十七年度には、この分は確かに少なくなるはずですが、前年度当初予算にないものです。このほか、県支出金で各種補助金の増を見込み、新屋小学校増移築に対する同PTAの寄付金約五十万円を計上しました。

一方、新屋小をのぞいた各学校　築等の事業が完了し、このほか、前年一年の特別事業の完了等で、国からの補助金、起債などが大幅に減少したため、別表の歳入計上となったわけです

しかし、三十六年度の当初予算編成以後の物価の上昇、それに伴なう人件費の増額、さらにことしは、新屋小学校増移築、福島保育園の建築、国有林野払下げ代金繰上償還金、役場庁舎建築資金などが予算化され、前年度の当初予算額にせまる予算総額となりました。

それでは、別表の予算の内訳をみながら、順次説明を加えてみましょう、

歳入

町税収入は、前年にくらべ約四百万円多く見込みました。これは、税率は前年同様ですが、私たちの所得がふえたり、家屋の新増築、償却資産の増その他によるもので、私たち住民の税負担が重くなるわけではありません。地方交付税は、諸物価の上昇や人件費の増額などで算定基準が高くなり、町有林の立木売り払い代金収入千三百五十万円が、前年度当初予算にないものです。このほか、県支出金で各種補助金の増を見込み、新屋小学校増移築に対する同PTAの寄付金約五十万円を計上しました。

一方、新屋小をのぞいた各学校増移築などの大事業のため、一億八百万円をこえた予算を組んだわけで、この財源としては起債及び補助金を多額に見込んでいたわけです。

三十七年度には、この分は確かに少なくなるはずです

歳出

『議会費』
議員報酬百四十九万五千余円、職員給一千百十八万五千余円（このなかには区長、同代理者公平委員等の報酬も含まれています。）諸手当九十八万七千余円、その他

『役場費』
職員給一千百十八万五千余円、職員給六十一万二千円、旅費諸手当九十八万七千余円、その他

『消防費』
団員に対する報酬や手当が九十九万余円、自動車修理、各種備品などの需要費が百七十七万八千余円、七分団の可搬ポンプ及び台車購入費七十万円などです。

『土木費』
道路維持修繕費として三百六十四万五千円（この中には小幡～多胡線、那須林道、その他町道改修工事費がはいっています。）、橋の維持修繕費二百十万円、このほか道路災害、橋の災害復旧費その他です。

『教育費』
教育委員会費二百二十九万四千余円、小学校費一千百五十八万五千余円（うち新屋小学校増移築費七百十四万二千余円を含む）、中学学費三百六十三万九千余円、学校給食費百五十九万四千余円（小幡小、中学校分）社会教育費百五十八万余円（青年学級費、婦人学級費、ほか）その他。

『保健衛生費』
伝染病予防費九十八万余円、結核予防費四十二万七千余円、隔離病舎費三十四万余円、腸パラ、小児マヒなどの一般予防接種費四十万四千円、その他

『社会及び労働施設費』
社会福祉費百十六万余円、托児所費三百三十六万七千余円（うち、福島保育園の建築費百九十八万二千円を含む）、このほか国民年金事務取扱費、家族計画費など。

『産業経済費』
農業委員会費四百三十二万七千余円、農業振興費五百八十四万九千余円（うち、新農村建設事業費四百二十五万円、農協統合推進費三十万円。耕地事業費百三十九万二千円、農地集団化事業費十七万二千余円、その他商工振興費、林業振興費など。

『財産費』
基本財産造成費一千百十七万四千余円（うち、国有林野払下代金の繰上償還金一千万円、同借入金利子九十万四千円をふくむ）、町有林ぶ育費五十三万余円、役場庁舎建築資金積立金三百万円、その他建物の保険料、財産処分の調査費など。

『統計調査費』
農林統計、商工統計、就業構造基本調査などの経費。

『選挙費』
選挙管理委員会費八十一万円
参議院議員選挙費二十一万余円
町長及び町議選挙費十七万円

『公債費』
元利償還金三百十一万九千余円その他。

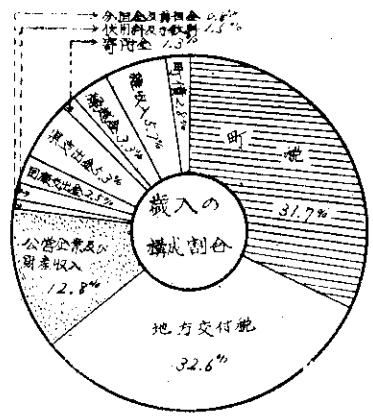
『諸支出金』
徴税費百十七万四千余円、繰出金（国保会計へ六十万円。農業共済会計へ五十万円）、国民年金印紙購入費五百二十三万二千円、広報発行費十三万五千余円、その他。

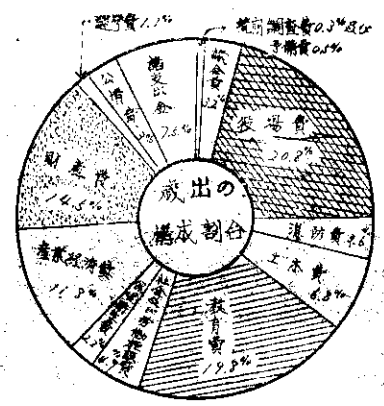
『予備費』
支出増などに対する予備

昭和37年度一般会計予算

歳入 科目	金額
	円
町税	33,582,140
地方交付税	34,156.000
公営企業及び財産収入	13,527,800
分担金及び負担金	863,990
使用料及び手数料	1,597,320
国庫支出金	2,622,823
県支出金	5,609,560
寄附金	1,354,088
繰越金	3,500,000
雑収	6,059,960
町債	3,000,000
歳入合計	105,873,681

歳出 科目	金額
	円
議会費	3,416,080
役場費	22,010,947
消防費	3,814,100
土木費	7,187,000
教育費	20,988,753
社会及び労働施設費	5,154,921
保健衛生費	2,279,684
産業経済費	12,516,330
財産費	15,311,030
統計調査費	274,500
選挙費	1,190,500
公債費	3,203,718
諸支出金	7,955,320
予備費	570,798
歳出合計	105,873,681





予算編成の方針

本町発足して四年目を迎えました。

昭和三十七年度の予算編成に当つては、義務教育の万全を期すための一つである役場庁舎建築資金の積立を行なうと共に、福島托児所の新築、町道の改修、消防施設の充実災害復旧工事の実施、新農村建設事業の実施、富岡～万場線その他県道の改修促進など本町建設計画に盛られた多くの計画を

に新屋小学校の増移築を第一にとり上げ、町道小幡～多胡線の改修と奥地林道の延長、又、合併基本協定に盛られた事業

いたしました。

この中で、内にあってはできるだけ事務的経費の節減を図って最大限の事業を実施したいと考えます。

どうか、住民各位の絶大の協力をお願いします

特別会計

小幡簡易水道

＝37年度予算＝

ことしは、約八十万円を投じて水道管のかけ越え工事（雄川の下をとおしていた水道管が洗い出され、また、砂利がたまっているおそれがあるので、橋のようなものをつくって、川の上をとおす工事）を行なわなければならないので、諸支出金を減額し給水工事費を増額したほかは、前年度当初予算と大差ありません。

◇歳入

分担金及び負担金	八三八、六〇五円
使用料及び手数料	八一九、五〇〇円
繰越金	五七〇、〇〇〇円
雑入	五三、〇〇〇円
合計	二、二八一、一〇五円

◇歳出

給水工事費	一、四五四、〇八五円
公債費	五四一、三六〇円
徴収費	二三、〇〇〇円
諸支出金	六〇、〇〇〇円
予備費	二〇二、六六〇円
合計	二、二八一、一〇六円

天引金井簡易水道

＝37年度予算＝

◇歳入

使用料及び手数料	二五五、〇〇〇円
雑収入	一〇〇円
合計	二五五、一〇〇円

◇歳出

維持修繕費	三一、六〇〇円
公債費	一六三、二〇〇円
諸支出金	一七、七五〇円
予備費	四二、五五〇円
合計	二五五、一〇〇円

※特別会計のうち国民健康保険と農業共済の各予算は裏面にあります。